

CiNii Research

機関向けダッシュボードの紹介

西岡 千文

(国立情報学研究所・オープンサイエンス基盤研究センター)

2024年11月7日 (木) 10:30-12:00

図書館総合展2024「CiNii Research: 統合と展開」



オープンサイエンスモニタリング (OSM)

UNESCOオープンサイエンス勧告「加盟国は定量的及び定性的な手法を組み合わせて、オープンサイエンスに関連する政策及びメカニズムをモニタリングする必要がある」

米川和志. E2585 - ユネスコ「オープンサイエンスに関する勧告」. カレントアウェアネスE. No. 433, 2022.

UNESCO Recommendation on Open Science. UNESCO, 2021. <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000379949.locale=en>

オープンサイエンスモニタリング (OSM) オープンサイエンスの原則と実践に関連する活動を観測・評価するプロセス

- 観測対象
 - 論文のオープンアクセス
 - 研究データ共有・公開
 - 研究者・関連セクター間のコラボレーション
 - ...
- 観測に対するアクション
 - オープンサイエンスに係る戦略の策定・改定
 - オープンサイエンスに係るベストプラクティスの共有

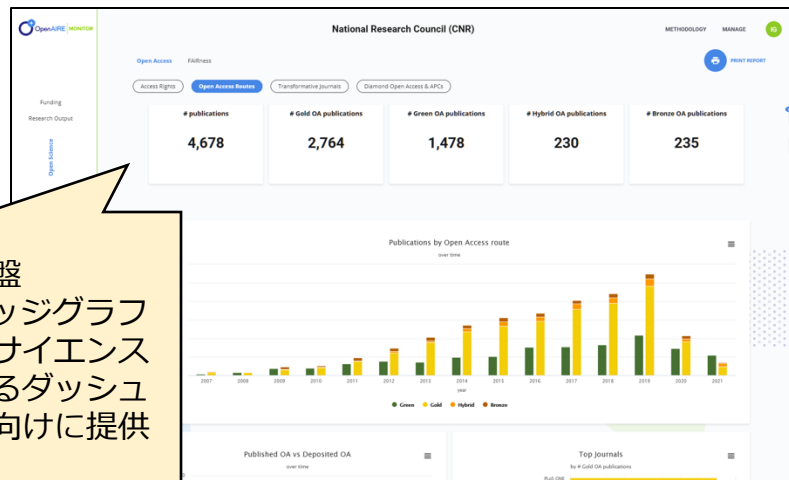
⇒ オープンサイエンスの推進に貢献

OSMと研究評価に関する海外の動向

【OSM基盤】

- 論文のオープンアクセス、研究データの公開状況等のモニタリングを可能にするダッシュボードが誕生
 - ダッシュボード：対象国・対象機関が行う研究活動や研究成果物に関するデータを収集・可視化し、分析に資する材料を提供するプラットフォーム
- 国、研究機関、助成機関等の様々なレベルでのOSMを実施

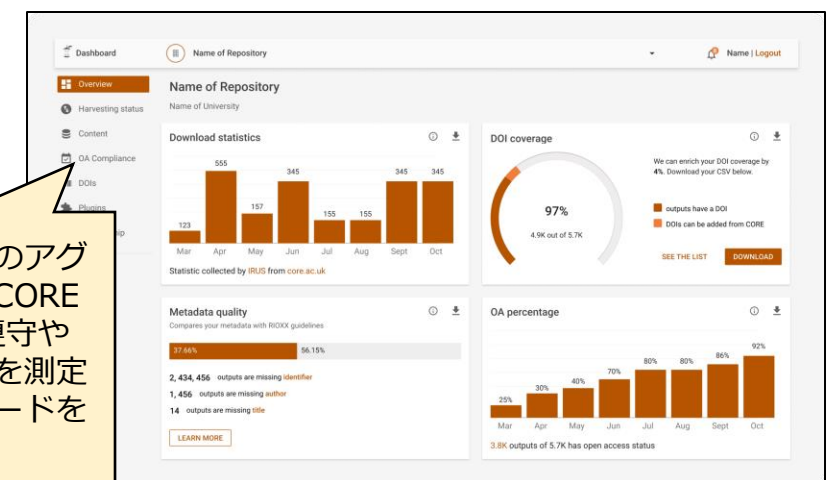
OpenAIRE Monitor Institutional Dashboard



欧州の学術情報基盤
OpenAIREのナレッジグラフ
を元に、オープンサイエンス
の観測を可能とするダッシュ
ボードを研究機関向けに提供

出典： <https://www.openaire.eu/openaire-monitor-institutional-dashboard-our-new-service-tailored-to-your-needs>

CORE Dashboard



機関リポジトリのアグリゲータであるCOREは、OA方針の遵守やメタデータの質を測定するダッシュボードを研究機関に提供

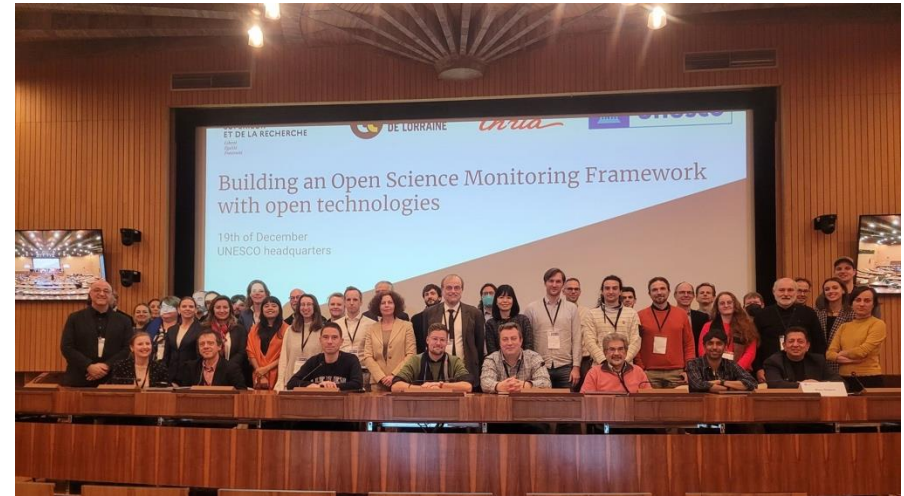
出典： <https://core.ac.uk/services/repository-dashboard>

OSMと研究評価に関する海外の動向

【国際標準の検討】

2023年12月19日UNESCO本部にてワークショップ“Building an Open Science Monitoring Framework with Open Technologies”が開催

- UNESCO、フランス高等教育・研究省（MESR）によって組織
 - 欧米を中心として世界各国から50名が参加
 - Principles of Open Science Monitoring（オープンサイエンスモニタリング原則）の検討
 - オープンサイエンスモニタリングの結果の蓄積、比較、再利用を促進するベストプラクティスとガイドラインを確立することを目的
 - オープンソースの使用やデータの公開を行い、再現性・透明性を確保
 - 草案が公開されパブリックコメントを募集中
- ワークショップはOSMI（Open Science Monitoring Initiative）として、オープンサイエンスモニタリング原則の普及や実装に向けて活動



OSMと研究評価に関する海外の動向

【研究評価改革の機運】

- 2022年7月欧州における「研究評価の改革に関する合意」での研究評価の基準の原則
 - 研究の質とインパクトの評価
 - 「質」とは透明性のある研究プロセスと方法、および結果の体系的な再利用を可能にする管理を通じて研究が実施されることを意味
 - 研究のオープン性、再現可能であることは「質」に大きく貢献
 - 短期、中期、長期的なインパクト、分野や研究の種類（基礎研究、応用研究等）によるインパクトを考慮
 - 評価はピアレビューを中心とする定性的判断に依存、必要に応じて定量的指標を責任をもって使用
 - 多様性、包摂性、協働性の評価
 - 多様な研究貢献（査読、指導、産学・社会連携、アウトリーチ等）
 - 多様な研究成果（論文のみならず、データ、ソフトウェア、政策貢献等）
 - オープンサイエンス実践（データ共有、オープンコラボレーション等）
- 2022年12月、上記の実行のため欧州の機関等が「研究評価促進連合（CoARA）」を設立



CiNii Research機関向けダッシュボード

CiNii Research (CiR) 機関向けダッシュボード

高品質かつ日本の学術論文、研究データ、プロジェクト等を網羅的にカバーしているCiNii Researchナレッジグラフに基づき、研究機関の構成員が行う研究活動や研究成果物、それらの影響力に関するデータを収集・可視化することで、以下に貢献する。

• オープンサイエンスの推進 想定利用者：図書館職員等

- 各機関の研究成果物並びにそれらのオープン化の現状の把握（オープンサイエンスモニタリング）を可能にすることで、論文・研究データ等の研究成果物のオープン化の戦略策定（機関内の体制、ポリシー整備）や効率化を支援する

• 研究力分析と研究評価支援 想定利用者：リサーチ・アドミニストレータ等

- 研究力活性化に向けた現状分析、エビデンスに基づいた戦略策定を可能とする
- 海外や商用のダッシュボードとは異なり日本の研究成果物を広くカバーすることで、多様性を考慮した研究評価を支援する

提供指標

研究サイクル
全体をカバー

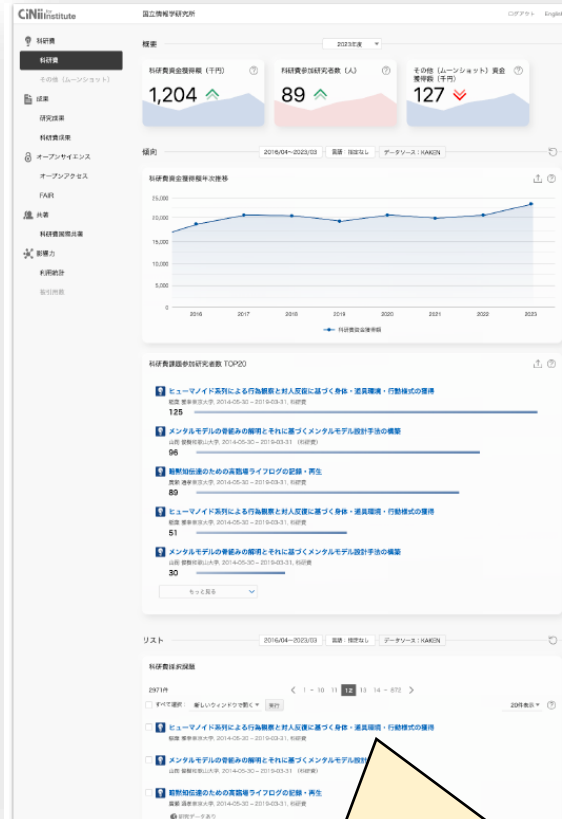
カテゴリ	サブカテゴリ	指標
資金	科研費	【概要】 科研費資金獲得額, 科研費参加研究者数
		【傾向】 科研費資金獲得額年次推移, 科研費課題参加研究者数TOP20
		【リスト】 科研費採択課題
成果	研究成果	【概要】 論文数, 研究データ数, 本の数
		【傾向】 研究成果物の種類別比, 研究成果物の種類別年次推移
		【リスト】 新着成果物
	科研費成果	【概要】 論文数, 研究データ数, 本の数
		【傾向】 研究成果物の種類別比, 研究成果物の種類別年次推移
		【リスト】 新着成果物
オープンサイエンス	オープンアクセス (論文)	【概要】 オープンアクセス率, DOI付与率
		【傾向】 OA成果物のOA種類別比, OA成果物年次別推移
	オープンデータ	【概要】 オープンアクセス率, DOI付与率
		【傾向】 DOI付与率年次推移
共著	科研費国際共著	【概要】 科研費国際共著率
		【傾向】 科研費国際共著者分布
影響力	利用統計	【概要】 論文総DL数, 研究データ総DL数, 本の総DL数
		【傾向】 論文総DL数年次別推移
		【リスト】 DL数が多い成果物

OpenAIRE Monitor Institutional Dashboard等、オープンサイエンス志向のダッシュボードを参照して決定

現在、試用版（後述）にて赤枠内の指標を提供

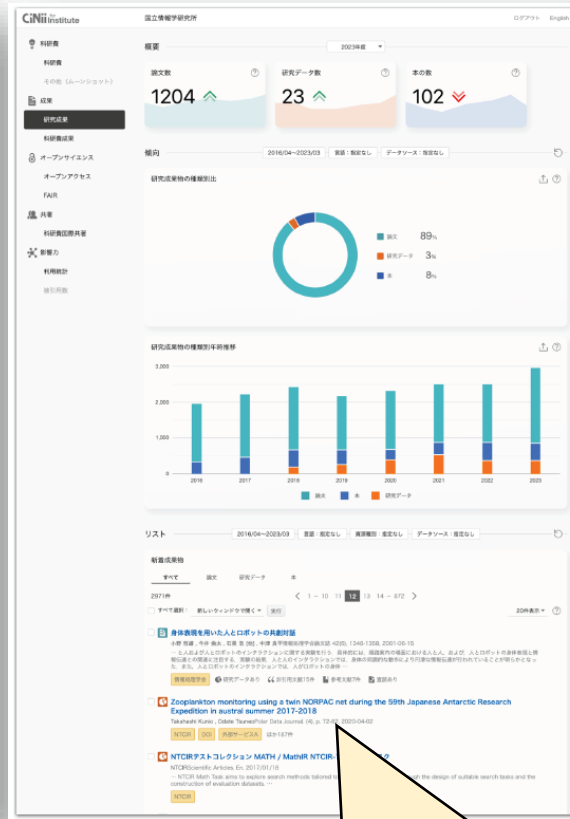
インタフェース

科研費



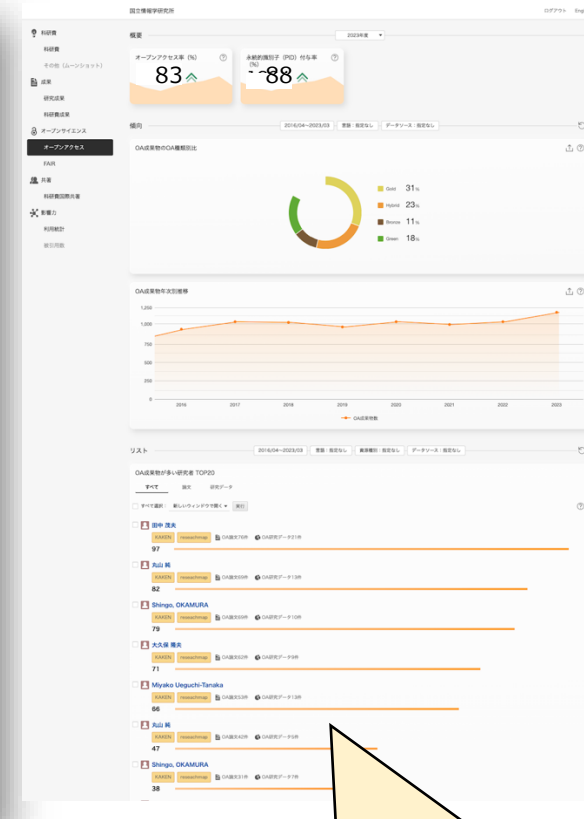
機関や研究者ごとに
リスト化された成果物や
研究プロジェクトを表示

研究成果



年や年度ごとの比較が
直感的に実現できる
可視化フィールドを設置

オープンアクセス



機関の研究者のOA状況
等オープンサイエンスの
実践を可視化

試用版の提供と利用実績

2023年秋より一部の指標（成果に関する指標）を実装したCiNii Research
機関向けダッシュボード試用版を提供

【利用実績】

機関種別	機関数	利用者数
国立大学（大学共同利用機関法人含む）	27	58
私立大学	9	10
公立大学	2	2
大学共同利用機関法人	3	3
国立研究開発法人	1	1
合計	42	74

リサーチ・アドミニスト
レータ協議会、国立大学
法人等研究協力部課長会
議、NIIオープンフォー
ラム等でのアウトリーチ
活動

（2024年10月29日現在）

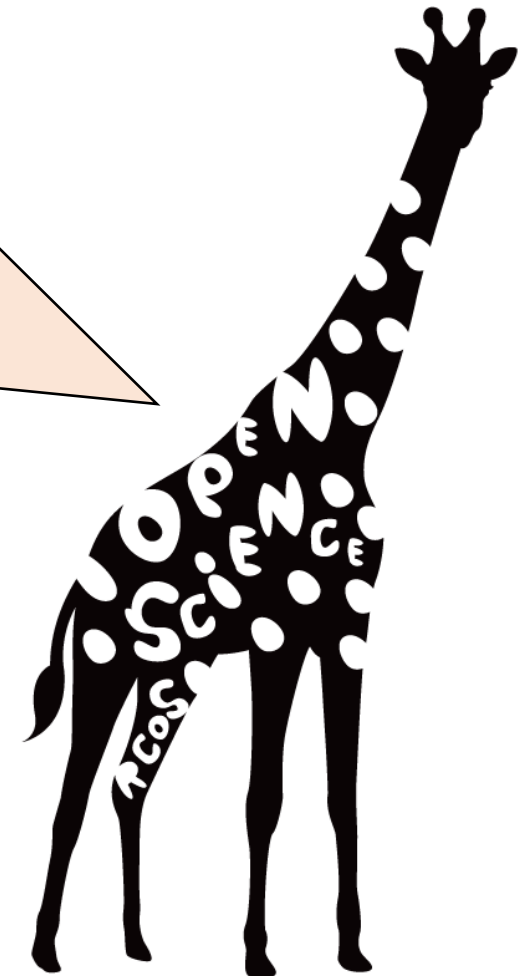
試用版の利用申込

以下より申込をお願いします

<https://forms.gle/o7XMrkVAAMqbzrmp8>

(Googleで「CiNii Labs」と検索し、CiNii Labsサイトへアクセスいただき、「CiNii Research機関向けダッシュボード」のページからフォームにアクセス)

- 個人単位での申込を受け付け
- 無料
- 義務なし (アンケート等は任意)



寄せられる期待

- 機関の研究活動の可視化
 - 商業出版社の機関向けダッシュボードではカバーできていない和文論文、図書が研究成果として多い人文社会学系分野での期待が特に大きい
- OA関連
 - 「即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」
 - 即時OAにむけた学内事業計画策定
 - 機関リポジトリに登録できていない非OA論文の把握
- 金銭的負担減
 - （中小規模の大学から）商業出版者等のダッシュボードは高額で契約不可/取りやめ

まとめ

CiNii Research (CiR) 機関向けダッシュボード

CiNii Researchナレッジグラフに基づき、研究機関の構成員が行う研究活動や研究成果物、それらの影響力に関するデータを収集・可視化することで、「オープンサイエンスの推進」と「研究力分析と研究評価支援」に貢献

- 関連する動向として、海外でのオープンサイエンスモニタリングについての開発の高まり、研究評価改革の機運
- 2023年秋よりCiNii Research機関向けダッシュボード試用版を提供

ユーザ、国内外の様々なステークホルダと対話を重ねて、CiNii Researchを活用したオープンサイエンスモニタリングの枠組みを構築し、オープンサイエンスの推進に貢献したい